

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人 神戸キリスト教女子青年会

1 事業の趣旨・目的

受講生自身が日本語学習経験者であり、受講生のニーズやアイデア等をできるだけ取り入れ、受講生の主体的な学びにつながるように内容や運営にも配慮したい。また、この講座で学んだ外国人の日本語指導者が、講座修了後、大人の学習者だけでなく年少者を対象とした日本語支援を行うことをも視野に入れ、成人教育との違いに留意した指導法や、JSLカリキュラムなど学習活動に必要な日本語についても学べる機会とする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月11日 18:00 ～19:30	神戸 YWCA 会館	三隅・斎藤 松田・川辺 福井・掛橋	講座の開設にあたって	・経緯・趣旨説明・許可の報告と内容の詳細についての意見交換。 ・前年度の反省点の共有。
8月29日 18:00 ～19:00	神戸 YWCA 会館	斎藤 松田・川辺 福井・掛橋	講座開講準備について	・受講生へのインタビュー内容と選考基準について。 ・広報について協議。
10月10日 18:30 ～19:30	神戸 YWCA 会館	斎藤 松田・川辺 福井・掛橋	受講生決定と 講座の方向性について	・インタビューの結果(受講生のレベル)を踏まえて今後の講座の方向性と各講義での役割などについて話し合った。
11月28日 18:00 ～19:30	神戸 YWCA 会館	三隅・斎藤 松田・川辺 福井・掛橋	振り返り	・アンケート結果を踏まえ、講座全体の報告と振り返り・総括を行った。 ・今後の受講生の活用についても話し合った。

【写真】



3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名 外国人のための日本語指導者養成講座

(2) 養成講座の目標

一定以上の日本語能力を有する外国人を受講対象者とし、日本語の知識、指導法を身につけることを目標にした日本語指導者養成講座を開設し、母語と日本語を活用してより効果的な日本語支援を行う人材を養成する。

(3) 受講者の総数 11 人

(4) 開催時間数(回数) 3 時間 (7 回) 別途面接 1 人 30 分程度

(5) 参加対象者の要件

日本語能力(日本語能力検定試験 2 級以上)を有する外国人

(6) 受講者の募集方法

ちらしの配布(日本語ボランティア団体、国際交流団体、関係団体など計 50 か所)

兵庫県教育委員会及び神戸市教育委員会からの後援・ご協力により、各学校現場で活動している日本語サポーターへの通知、HP への掲載。国際交流センター発行のニュースレター「あじさい」に掲載。

(7) 研修会場

神戸YWCA会館

(8) 使用した教材・リソース

(配布)

各講師のハンドアウト、参考プリント(別添)

(参考図書)

『みんなの日本語 I、II、中級 I 本冊』 スリーエーネットワーク

『教材カタログ 2010 年度版』 凡人社

『新日本語の中級 本冊』 スリーエーネットワーク

『合格水準 日本語教育能力検定試験 用語集』 アークアカデミー編 凡人社

『日本語教育能力検定試験 試験問題』 凡人社

『日本語初級 1 大地 メインテキスト』 スリーエーネットワーク

『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』 スリーエーネットワーク

『ストーリーで覚える漢字 300 英語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語訳』 くろしお出版

『改訂版 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 中級前期、中級後期』

スリーエーネットワーク

『日本語初級 1 大地 文型説明と翻訳 英語版』 スリーエーネットワーク

『にほんご宝船 いっしょに作る活動集』 アスク出版

『新装版 J.Bridge ジェイ・ブリッジ』 凡人社

『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編 1』 くろしお出版

『J.Bridge for Beginners Vol.1、Vol.2』 凡人社

『日本語能力試験対策 日本語総まとめ問題集 2 級(読解編)、(漢字編)』 アスク出版

『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編 2』 くろしお出版

『楽しく話そう』 文化外国語専門学校

『クラス活動集 101』 スリーエーネットワーク

『おたすけタスク』 くろしお出版

『日本語 おしゃべりのたね』 スリーエーネットワーク

『会話に挑戦！ 中級前期からの日本語ロールプレイ』スリーエーネットワーク
『ロールプレイで学ぶ 中級から上級への日本語会話』アルク
『新装版 日本語集中トレーニング』アルク
『初級から中級への橋渡しシリーズ② 文法が弱いあなたへ』凡人社

(その他) 生教材、神戸YWCA話題カード

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10/17(土)	オリエンテーション	松田公平	11 人
10/17(土)	②日本語を指導するためのスキル (基礎知識)	斎藤明子	11 人
10/24(土)	③日本語を指導するためのスキル (発音)	斎藤明子	9人
10/31 (土)	⑤日本語を指導するためのスキル (会話)	福井武司	11 人
11/ 7 (土)	④異文化理解	三隅友子	11 人
11/14 (土)	⑥外国にルーツを持つ子どもたちについて兵庫県の現状と課題	水野マリ子	11 人
11/21 (土)	⑦子どもの日本語教育現場から実際に伝える 1	大和田邦子	10 人
11/28 (土)	⑧子どもの日本語教育現場から実際に伝える 2	大和田邦子	9人
11/28(土)	修了式 外国人にとって住みやすい街とは？	松田公平	9人

※別途 面接による日本語レベルチェック 1人 30分

10/2 1人 (福井武司・掛橋智佳子)

10/3 4人 (松田公平・掛橋智佳子 4人 (福井武司・掛橋智佳子)

10/6 2人 (福井武司・松田公平)

2) 講座内容の詳細報告

1回 10月17日(土) 10時～12時半

日本語文法と日本語教授法の基礎知識 神戸女学院大学非常勤講師 斎藤明子

日本語を教える立場に立って日本語の構造、体系を再認識する作業をした。かつて体系的に日本語を学んだ人ばかりではなく、生活の中から自然に日本語を学んだ受講者もいたため、必要性が高かった。また、日本での生活で日常生活に即必要になることを思い出し、知っておけばよかったことなどを確認する作業もした。

受講者は、自らの学習経験に当てはめて改めて日本語体系を認識し、日本語がより整理されたという感想が多かった。

(斎藤明子)

第2回 10月24日(土) 9時半～13時

日本語文法と日本語教授法の基礎知識 神戸女学院大学非常勤講師 斎藤明子

必要な日本語を理解させ定着させるまでのプロセスを分析し、そのためのスキルが必要であることを認識してもらった。そして、演習として、実際に課題を与えてそのスキルを学んだ。

演習結果を発表する中で、スキルの使い方、自分なりの工夫などのアイディアが出てきて、実際に教える時のヒントになったと思われる。日本語を教えるためには、日本語が話せるだけではだめであること、そしてスキルが必要であることを認識したという感想が多く、こちらの狙いは達成できたと思われる、

(斎藤明子)

第3回 10月31日(土) 10時～13時

会話の指導法 神戸YWCA学院 福井武司

前回の講義の流れを受け、講義の冒頭、会話指導のゴールは「学習者自身が自分のことについて話すことである」ということを再確認した。また実践的な日本語教育を意識し、市販の会話教材をレベル別に紹介した。その中で、YWCA 学院が作成した『話題カード』を使って模擬授業も展開した。また実際に教室活動における教師の言葉のコントロールにも触れ、その重要性を全体で共有した。

受講生は非常に熱心に取り組み、アンケートにも実践的なクラスであった。教材のこと、言葉のコントロールの重要性がよくわかったという声があるように、こちらの狙いは達成できたと考えられる。

第4回 11月7日(土) 10:00～13:00

異文化理解について 徳島大学留学センター 三隅友子

講義はお互いを深く知るため、受講生一人ひとりの自己紹介から始まり、次にそれぞれ心の中にある異文化の壁について話が進んだ。その後、異文化理解のためのコミュニケーションの方法を考察、最後は受講生の講義についての感想発表で締めくくられた。

受講生は受講生自身の日本での異文化体験をさらに日本語を「教える」ことにつなげていく必要性を感じたように思われる。(福井武司)



第5回 11月14日(土) 10:00～13:00

子どもの日本語教育 神戸大学留学生センター教授 水野マリ子



講義の前半は全国・兵庫県下における日本語指導が必要な外国人児童生徒数など客観的なデータの紹介や、「生活言語」と「学習言語」の習得の違いにも触れ、学習言語習得の難しさを確認した。後半はリライト教材を用いて外国人児童に対する日本語教育の現状を伝えた。理論的な部分と実践的な部分の両面で講座が構成されていた。受講生は現状を把握するとともに、今後の指導における考え方を学んだ。アンケートにもっと聞きたかったという意見もあるように、皆興味を持って耳を傾けていた。

(福井武司)

第6、7回 11月21、28日（土）10時～13時

子供の日本語教育 神戸生田中学 JSL 教室指導員 大和田邦子

現在神戸市内の小学校及び中学校で日本語指導をしている。そのときに母語支援のボランティアの人々と話す機会がいくつかあった。やはり日本語についてあるいは文化的背景などについて知らなければという思いが強いこと

今回の講座では自分が体験してきたことの振り返りと新たな知識を得たことで、改めて学習者とのふれあいと支えに是非試みていきたいということや、グループワークを通じていろいろな国の人とも話し合うことや違いを知ることが出来、これをきっかけに改めて挑戦をしてみたいという言葉がきかれた。

（大和田邦子）



（10）講座の評価

①受講生に対するアンケート（以下受講生の意見、感想は原文どおりに記載する）

講座について

※評価（5. たいへん役に立った 4. 役に立った 3. どちらともいえない 2. あまり役に立たなかった 1. 役に立たなかった）

➤ 期間はどうか？

☆ 長 い・・・・・・・・・・ 0人

☆ ちょうどいい・・・・・・・・ 4人

● 理由：

- 毎週土曜日なので、ちょうどいいと思います。
- 別に講座のせいではなく、場所が家からちょっと遠かったからです。

☆ 短 い・・・・・・・・・・ 5人

● 理由：

- スクールサポーターとして、長い時間勉強して優秀なサポーターになりたいから。
- もっと知りたいことがありました。
- 講座の内容がとても豊富です。進み方が早くて質問する時間が少なかったです。
- たくさん勉強になりました。役に立つことをもっと知りたいです。

「日本語文法と日本語教授法の基礎知識」（斎藤先生）の講義について（10月17・24日実施）

評価	5	8人	4	2人	3	0人	2	0人	1	0人
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

➤ 意見・感想など：

- ・基礎的な知識・教え方などを適切に教えていただきました。
- ・教えていただいた文型の教え方を使って新しい生徒に教えたい。
- ・わかったこと：文の構造と機能を説明。読む、聞く、話すをリピート。
- ・授業の流れはわかりましたが、実習が足りなかったと思う。
- ・日本語の文法を再整理することができました。
- ・講座を通じて外国人に日本語を教えるとき、文法を教えるのが一番難しかったです。だから、使用頻度が多くて簡単な文型で、いろんな話ができるように教えること、とか言い教え方を習得しました。
- ・すごくわかりやすいです。サポーターをするときに具体的な教え方などほんとに勉強になりました。

- ・言葉のコントロールについて。すごく活用でききる技だった。
- ・日本語の教え方は、頭の中で整理ができたと思います。新しい言葉を教えるときの考え方、つまり、導入⇒練習⇒ゴールまで到達する流れがとても役に立ったと思います。
そして使用するテキストもよく研究する必要があることもわかりました。学習者に合わせて教えることがとても大切なことだということもわかりました。
- ・今まで習った日本語をもう一度整理ができ、日本語の教え方にとても役立つと思いました。
- ・文の構造と文型をもっと理解して、必要な時に必要な人にわかりやすく解説ができればよいなあといます。

「日本語文法と日本語教授法の基礎知識（会話指導）」（福井先生）の講義について（10月31日実施）

評価	5	9人	4	1人	3	0人	2	0人	1	0人
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

➤ 意見・感想など：

- ・知識より実践を重点に教えていただき、日々の教え方を反省させられました。
- ・今までどの教材を使えばいいのかわからなくて、教材はバラバラでした。福井先生の話聞いて、新たな知識を身につけてこれから年間の計画を立てるようにすると、教え方もやりやすくなりました。
- ・分かったこと：自分のことを話してもらう。教えるときの言葉をコントロールする。
- ・初心者に対して中級以上の単語を言ってしまうことがあった。今後言葉のコントロールに注意する。
- ・初級日本語学習者に対してもわかりやすい教え方がわかりました。
- ・講座を通じて学習者に合わせて、どのように教材を選ぶのか、教えるときの言葉のコントロール、話題の選択、上手な質問の方法、教えるとき、一気に全部教えるより、階段のように段階的に教えるとかい、いろんないい方法を教えてもらいました。
- ・一番印象に残った言葉は、「テキストの研究」 印象に残った物は、YWCAの会話カード。
- ・講義も面白かったし、会話についていろいろな技を勉強し、テキストもたくさん紹介された。
- ・教えるときの言葉のコントロールが分かりました。学習者が自分のことについて会話できるようにするために、会話教材を使ったり、話題を考えたり、カードを使うなど、いろんな準備をする必要があります。そして会話練習するとき、学習者の話を引き出す方法と必要な時教えるほうも自分のことも話したほうがいいことがわかりました。
- ・会話ができることが最大の目的で、いろんな教材を取り入れながら楽しく教えられたらよいなあといます。

「異文化理解」（三隅先生）の講義について（11月7日実施）

評価	5	5人	4	4人	3	0人	2	0人	1	0人
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

➤ 意見・感想など：

- ・三隅先生の講義についてとても感動しました。これから自分が何ができるかを考えて、自分の地域の人々と地域にいる外国人を結ぶことができるように頑張っていきたいと思います。
- ・多文化共生についての理解と働きかけ方などを教えていただきましたが、受講生に合わせた工夫をしていただきたかったです。
- ・分かったこと：異文化接触⇒情報と経験、教育。異文化接触を妨げるもの⇒ステレオタイプ、偏見、差別。異文化理解⇒場と対話。
- ・異文化によって発生したトラブルを実際に解決した例が知りたい。
- ・外国人向けの立派な日本語の講師になるには、日本語も重要ですが、異文化を理解して相手の状況

に合わせて教えるのと、いい発音のなおし方、相手は変わらないから、自分のやり方を変えて教える方法を習得しました。

- ・日本人の目線で異文化の理解のためには一番大切なものは何ですか？ということがよくわかりました。
- ・ドイツ、ベトナム、スーダン、などいろいろな国の人が紹介されたり、先生の言葉表現も面白かったです。
- ・外国人にとって、誤解をなくすために異文化の理解がいかに大切かということがよくわかりました。外国人と付き合い、相手の立場に立って考える。思い込みはだめ、自己開示（コミュニケーションすること）、気持ちをよくつたえているかどうか確認することなど、たくさんの勉強ができました。
- ・自己紹介をさせることによって、本人の名前、出身地、思っていること、好きなことを話させるのはとても良いと思いました。話しをすることで互いの距離も縮められ、理解しあえるような気がします。

「子どもの日本語教育」（水野先生）の講義について（11月14日実施）

評価

5	6人	4	2人	3	1人	2	0人	1	0人
---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

➤ 意見・感想など：

- ・理論的、実践的に分かりやすい講義でした。もっと継続的に受講したい。
- ・とても役に立つと思います。
- ・分かったこと：大人と子どもの学習能力が違う。短期、理屈・長期の繰り返し。言語課題と思考過大。同時並行すると思考過大の成績が後退。
- ・言葉と文化両方重要だと思う。各国の文化によって言葉づかいが違う。
- ・外国人子どもに対する日本語教育の現状がわかるようになりました。教科書について、できるだけ学習者のレベルに合わせて、簡単に説明してあげる方法がわかりました。
- ・講座を通じて、言語学習での大人と子供との違いと子どもの中でも年によって理解度が違うので状況に合わせて教えるのが重要なことを教えていただきました。
- ・そして外国語副作用で子どもの思考課題の成績後退があるのをわかるようになりました。
- ・日本語以外の知識（神戸、姫路の歴史、日本の近代史）も教えてくれた。
- ・日本語指導が必要な児童生徒数及び他の外国語と比べて日本語の難しさがよくわかりました。子どもが言語を学習する郭年齢の特徴があり、その年齢に応じた教え方も違うから考えなければなりません。日本語の特徴ははじめて知りました。外国人の子どもの背景を考慮し、教科書の本文をリライト教材にする方法で分かりやすく教える必要があることもわかりました。
- ・親の仕事の関係で、日本に連れてこられた子どものデータや分布地域の現状を知ることができ、そういう子どもに対してのかかわり方を教わりました。

「子どもの日本語教育」（大和田先生）の講義について（11月21日,28日実施）

評価

5	7人	4	5人	3	1人	2	0人	1	0人
---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

➤ 意見・感想など：

- ・とても役に立つと思います。
- ・分かったこと：来日した子どもにとって一番必要なことは、各科100点をとることじゃなくて、先

生や友達との意思の疎通ができること。子どもの場合は、厳しい授業ばかりではなく、ゲームや歌などを合わせて勉強する。

- ・実際にいろんな道具を使って子どもの興味をひくものを作ってみて、簡単な道具もおもしろく授業ができるものになることがわかりました。
- ・外国人のこどものための日本語教育について勉強になりました。とても楽しかった授業でした。
- ・日本の教育の流れとか一部の政策とかが分かるようになって、初めて来日した子どもがどんな環境の中であって、日本語教師としてどのように交流して日本語を教えて、できるだけ子どもが一日も早く学習生活に適應するようにするのが大事だと思うようになりました。
- ・日本の教育制度と我が国の制度を比べて、いろいろな国の制度がわかりました。それについて違うところをよく気をつけるようにします。詳しい教え方を学んですごくいい勉強になりました。
- ・子どもに役立つアイデアがたくさんあることを意識しました。
- ・担任の先生とのつながる方法として当日子どもに教えたことをメモして先生に渡すことはとても勉強になりました。
- ・母国の教育環境と日本の教育環境の比較をしました。異文化に直面した時の対処法、子どもの目線に立っての見方、遊びを取り入れながら楽しく言葉の学習をさせる方法を学びました。

全体の内容について

評価

5	7人	4	3人	3	0人	2	0人	1	0人
---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

- その他質問、感想、アドバイスがありましたら、ぜひお書きください。
 - ・短い期間ですが、いろんな勉強ができました。福井先生と大和田先生の授業が一番よかったと思います。日本語サポートのとき、理論ばかりでなくて、実際にさせていただけたのがよかったです。
 - ・短い時間ですが、本当にいい勉強になりました。またこのような機会があったら、ぜひ参加させていただきたいと思います。
 - ・本当にいい講座でした。ありがとうございました。
 - ・いつも学生と先生たちに教えてもらっています。今度先生の目線を見て、「人を教える仕事は大変ですね!」と感じます。でもやりはじめて、自分の能力をアップして、できるだけ他の人に役立つサポーターになりました。すごくいい勉強でした。ありがとうございました。
 - ・特に大人に日本語を教える方法をもっと教えてほしいです。
 - ・私にとってこの講座を通して初めて知ったことがたくさんわかりました。とても勉強になりました。
 - ・なかなか良い授業を受けられ、大変勉強になりました。これを機にもっと文法と読解をマスターし分かりやすく人に教えられたらと思います。

講座修了後について

- 日本語の指導するはありますか？
 - ・すでに決まっている 7人（場所・機関： 小学校、高校、市国際交流サロン ）
 - ・まだ決まっていないが、やりたい 3人
 - ・やりたいが自信がない 0人
- 日本語に関するボランティアについて参加を希望されますか？
 - ・条件が合えば参加したい 8人
 - ・今のところわからない 2人

- ・ 希望しない 0 人

➤ 引き続き勉強したいことは何ですか？（いくつでも○をつけてください）

○ 自分自身の日本語

- ・ 文法 7 人 ・ 発音 6 人 ・ 聴解（聞き取り） 5 人 ・ 文字（漢字を含む） 4 人
- ・ 日本語能力試験対策 3 人 ・ 文章表現・作文 1 人 ・ 敬語 1 人 会話 1 人

○ 日本語の教え方

- ・ 文法 7 人 ・ 作文 4 人 ・ 聴解 2 人 ・ 文字 1 人
- ・ 中級の教え方 2 人 ・ 子どもの教え方 5 人 ・ 実習 2 人

① 実施主体からの研修内容結果評価

アンケート結果を見ると、受講生にとって全体的に好評であったということが言える。以下に全体評価、講座の内容、課題等について述べる。

全体評価：前年度は手探り状態の中で事業を進めた。結果は非常に好評だったが、課題として受講生の一部に「日本語を教えること」への意識が希薄で、あたかも自らの日本語能力のレベルアップのために参加しているかのようなケースが見られたことが挙げられた。このことに関し、今年度は事前のインタビューテストを実施し、否基準を設けることとした。そのため、今年度の受講生の日本語のレベルは総じて上がり、担当講師からも講義に出てくる抽象的な言葉、概念語なども素早く確実に理解できる受講生が多くなり、講義が進めやすかったという声が聞かれた。このことはこの講座自体の質が高まったと評価できるであろう。またテストでは日本語の質だけでなく、教えた経験があるか、教えたいという気持ちがどのくらいあるかということも重要視した。その結果受講生の多くは教授経験がある者となり、どの講義に対しても高い関心が寄せられたように考える。

また、前年度との違いに講座の内容を変更した点も挙げられる。前年度は講座の内容構成は、異文化理解（1 回）、日本語文法と日本語教授法の基礎知識（4 回）、子どもの日本語（2 回）という構成であった。本年度はこの講座で学んだ外国人の日本語指導者が、生活日本語を中心としたボランティア教室で教えるだけでなく、年少者を対象とした日本語支援を行うことを考慮し、異文化理解（1 回）日本語文法と会話（3 回）、子どもの日本語（3 回）という構成に変更した。さらに細かく見れば前年度 JSL の大和田先生の担当「子どもの日本語」は 1 回だけであったが、今回は 2 回にその枠を増やした。また、会話指導の講座の中身教材紹介、模擬授業を多く取り入れ、より実践的で教えるためのノウハウを学ぶ内容を多くした。以上の二つの変更は受講生のアンケートに「実践的な教え方がわかった」「役に立った」という答えが多く見られた要因だと考えられる。

また講座の最終日に「外国人にとって住みやすい町とは」というテーマで受講生から意見を聞いた。建設的な意見アイデアが多く出され、今後もこうしたテーマで意見交換を行い、成果を地域に還元していきたい。

② 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

当学院が取り組む特に外国人児童・生徒の日本語教育を通して、強いつながりのある兵庫県教育委員会、

神戸市教育委員会には、今年度も後援をいただくことができた。参加者にも兵庫県が独自に行っているスクールサポーター制度では、日本語のサポートを必要とする外国にルーツを持つ子どもたちに母語話者がサポーターとして派遣されている人が6人参加。また伊丹市国際交流協会では、日本人の日本語ボランティア不足から、日本語学習者から、支援側に回っている2人も参加。スキルアップを行うとともに、現場の状況を報告しあったり、日本語指導についての質問や意見が活発に交わされたりした。本事業のような研修は現場でも必要とされていることがよくわかる。

また、講座修了時にはスクールサポーター制度や、地域の日本語ボランティアの紹介を行った。

② 研修後の人材活用

修了生には、次のような活動の場を紹介、または今後も継続的に案内していくつもりである。

1. 神戸市・兵庫県のスクールサポーター
2. 地域の小学校、支援グループなどでの日本語指導ボランティア
3. 神戸YWCA学院の日本語コースにおける日本語が十分でない子どもたちへの日本語サポートおよび学科指導
4. 神戸YWCA所属の外国人女性サポートグループIWA (International Women's assistance) における支援活動

(12) 今後の課題

昨年の反省を踏まえ、事前のテストに可否基準を設けたことで、受講生の半数以上が教授経験のある者となった。そのこともあり、受講生からは、基礎的な指導法だけでなく、より高いレベルの指導法を学びたいという意見も聞かれた。

また上記のように、受講生には様々な活動の場を紹介したが、多くは現在活動を行っている現場を重視し、その活動に広がりが見られなかった。このことは課題として挙げられるだろう。

さらに、神戸YWCAは神戸市中心部に位置することから、2年連続で行われたこの講座への参加者の多くは神戸市近隣在住者であり、地方からの参加者が少なかった。一方地方でも、近年外国人労働者やその家族、外国人の日本人配偶者は増加傾向にある。外国人が多く、長く在住している都市部に比べると社会的な支援や理解も進んでおらず日本語ボランティアや、ボランティアのスキルアップの機会が不足しているとの声も聞かれ、アウトリーチの必要性も感じている。

今後はこの講座を実施した2年で築いたネットワークを今後も維持すると同時に、都市部だけでなく地方在住の外国人も地域で安心して暮らせる社会づくりに寄与できるような企画を立案し、本事業に携わりたいと考えている。